

扱、万一御公邊ニも相成候儀ニ御座候ば、總仲間中へ相知らせ可申候、尤其節之入用等、如何程相掛候共、總仲間中より無異儀可被相出候事、

但百艘之内、家業先ニ而、万一喧嘩口論有之候共、先達相定置候通り相互ニ相慎致了簡可申候事、

右ケ條之通、此度相改、總仲間中ニ相談之上、銘々致承知候ニ付、仲間中致連印置候仍如件、

明和五年五月

年番

八丁堀

〔船組合定帳〕覺

一 神田仲町吉六殿店、船持八五郎儀、寶曆五年亥五月新規舟宿出シ候所、筋違、舟持并和泉橋舟持大勢、渡世之障りに相成難儀致候に付、家主吉六殿方へ相斷候所、則吉六殿并に證人長四郎殿達而頼候に付、亥八月迄、四ヶ月之内、船貳艘に而、渡世爲致候様了簡致遣候、夫過候は、早速外へ引越申候約束に致、則證文取置申候、

一 船持八五郎儀、寶曆五年亥五月、花房町へ新規船宿差出候に付、昌平橋舟持、和泉橋舟持、渡世之障りに相成候に付、家主吉六殿店方へ相届候は、店迄つらひ候に付、當八月迄、四ヶ月之間、差置吳候様に達而御頼に付、無是非證文取、差置申候所、度々相届候得共、得心不仕候に付、明和二年酉六月中、八五郎立退候様に申聞候得ば、早速得心仕、八五郎儀は、相仕舞申候に付、組合伊助方へ相譲り申候、

組合行事

卯兵衛

六兵衛

明和二年酉六月

〔江戸さいせい〕八百八町小船家之部

日本橋 三うら屋

同

るびす屋

同

大津屋

同

和泉屋